

中飯降遺跡

かつらぎ町には、西日本で最大の縄文時代（紀元前 10,000-紀元前 300）後期の遺跡があります。2008 年に発見された巨大な竪穴建物の跡が発掘・保存されています。竪穴の遺跡と柱の穴の大きさから、研究者たちは木の柱と藁でできたこの建物は高さ 12 メートル、面積 180 平方メートルほどの当時としては相当大型の建造物だったと推測しています。

遠く離れた日本の他の地域の影響が見られる土器は、この場所が縄文時代後期に重要な合流点であった可能性を示しています。このことから、考古学者はこの建物は住居ではなく集会所だったという説を立てています。